

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 (あかしあ)), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2 TEL 011-377-8373), 自己評価作成日 (令和4年12月1日), 評価結果市町村受理日 (令和5年2月8日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171300072-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年1月23日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe service outcomes like staff understanding, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はあり、職員は理念を理解し実践につなげられるよう日々のケアに当たっている。理念はユニット内に掲示し、いつでも確認出来るようになっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍で地域とのつながりを持つ事は難しいが、町内会への加入等により管理者が中心となりホームの様子を伝えたり、町内の様子を伺う等の交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が中心となり地域の人々に向け認知症の人の理解や支援の方法を伝えているが、コロナ禍もあり現在は難しい状況。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの近況報告も兼ね取り組み等について報告している。その中で頂いた意見等を日々のケアの参考にさせて頂く事もある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が中心となり市役所の方と連絡は密に取っている。ホームでの取り組み等も積極的に伝えながら協力関係を築く事が出来るよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修は行われており、内容は全職員が周知している。日々のケアでも身体拘束について話し合う事もある。現状、ユニットドアは施錠されているが身体拘束に当たる事は職員も理解しており、入居者の安全確保を考慮し行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待防止法についての研修は行われている。内容については全職員が周知している。自宅や事業所内での虐待が見過ごされる事がないよう注意を払いながら防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する制度についての研修は行われている。内容については全職員が周知している。個々の必要性があれば活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等があった時には、管理者が中心となり十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見、要望は管理者や職員へ伝えられるようになっている。意見、要望があれば職員周知の上、可能な限り運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度あるユニット会議等で管理者へ職員の意見や提案を聞く機会を設けている。他にも管理者へ伝える事もある。管理者から代表者へ職員の意見を伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通し代表者へ職員個々の努力や実績、勤務状況等は伝えられている。各職員が向上心を持ち働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量については管理者が把握し代表者へ報告している。働きながら資格を取れるような支援や必要な研修参加への機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍で難しいが、北広島サービスネットに加入しているので他ホームとの交流の場や研修参加等を通しサービスの質を向上させていく取り組みは行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族から不安や心配事、要望等は伺っている。入居後安心して生活出来るよう不安や心配事を解消出来るよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族が困っている事、不安な事、要望を伺い、入居後の様子を伝えながら不安を取り除く事が出来るよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、生活変化からどのような支援が必要かを見極めながら、職員間での情報共有を行いより良い生活を送る事が出来るような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小さな事や少しでも出来る事は行ってもらいながら、暮らしを共にする者同士の関係を築く事が出来るような支援や対応を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も一緒に本人を支えていく関係を築けるよう、日々の様子や家族の協力が必要な事を伝えている。ただ、コロナ禍もあり実際に会っての支援は難しいので、電話等の対応をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍という事もあり難しい事が多いが、電話やリモートで話をされたり、ガラス越しで顔を見たり出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合いそうな方を同じテーブルにする事で、入居者同士の良い関係が出来ている。別テーブルの方ともソファに座りお話しされたり、手を振ったりされる事もある。同じテーブルの方のお世話をされたりする姿も見られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もウエスを届けてくれたり、他施設での様子を伝えてくれたり会いに行ったりする事があった。お誕生日の写真を送ってくれたり、ご逝去された事を後日連絡してくれる事もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を伺いながら塗り絵や雑誌、パズルを提供したり、お笑いのDVDや今までの行事等のスライドショーを作成しテレビで流すなど意向を表現できない方も興味を持って頂けるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り入居前の情報把握に努めている。分からない事等は入居後、本人に何気ない会話の中から情報収集し職員で周知するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しずつ出来なくなってきた事については職員間で情報交換を行いながら周知し、出来なくなった事があっても本人が今まで通りの生活が出来るよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本3ヶ月に一度介護計画の見直しを行っている。その中で職員個々で感じている変化やより良い生活を送れるような支援の見直しをしている。家族からの意見も伺いながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や変化等があれば、個人の記録や日誌、必要に応じ連絡ノートに記入し職員間での情報共有に努めている。介護計画の見直し時にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナ禍という事もありますが、過去には家族だけで出掛ける事が難しいお墓参りへの対応をしたりと可能な限り柔軟な支援やサービスを心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり地域資源の活用は難しいが、本人が心身の力を発揮できるよう、日々のケアで家事参加等で暮らしを楽しむ事ができるよ支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明しかかりつけ医を決めている。適切な医療を受けられるよう支援しているが、希望のかかりつけ医が遠方の場合、家族が中心となり受診する病院もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で感じた気づきや情報は訪問看護時に伝えて相談している。適切な受診や看護を受けられるようアドバイスや指示をもらい支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に退院できるよう病院関係者や家族との情報交換や相談に努め、安心して治療できるようにしている。病院関係者との関係づくりは管理者が中心となり行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームで出来る事の説明はしているが、重度化してきた時や終末期を考えなければならない時に、再度家族等と話し合いの場を持ちこの先考えられる事やホームで出来る事を伝え方針の共有に努め病院と支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時の対応については定期的にシュミレーションしながら実践力を身に付けるようにしている。分からない事は分からないままにせず確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練は行っている。コロナ禍のため実際に行う事は難しいが、火災の時はどうすれば良いか、地震の時はどうするかは昼夜問わず職員間で話し合っている。分からない事も聞きあっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者に聞こえないようにトイレへの声掛けをしている。耳が聞こえにくい方に対しては耳元で声掛けするようにし極力自尊心を配慮するように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を言える方は何うが、思いや希望を表せられない方には、何がしたいかや何と何ならどちらが良いか等自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日ひとり一人のペースで過せるよう何をしたいか伺いながら希望にそった支援を心掛けている。特に希望がない時でも、里の家のムービーを見て楽しまれたり童謡を聴きながら歌ったりされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみには気を付けている。食べこぼし等の汚れがないかや起床時の髪の毛の寝癖を直したり等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には野菜の皮むきや刻みのお手伝いをお願いしている。配膳や下膳を手伝ってくれる方や食器拭きやお盆拭きを手伝ってくれる方がおり、それぞれ楽しみにされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく食事していただけるよう食事の提供をしている。水分量の確認も行っている。自分で水分を摂ろうとされない時には、促しや介助を行いながら水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは行っている。自立されている方は自ら行われたり声掛けをしたりしている。ご自分で行う事が難しい方には、職員が介助し口腔ケアを行い汚れや臭いが生じないよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがない方に対しては、排泄表や本人の様子を伺いながらトイレ誘導しトイレでの排泄を促している。日中にパット汚染される事は少ない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自身で動く事が難しい方もいるが、排泄表等を確認しながら数日排便がない時には、起床時冷たい飲み物や乳製品の提供を行ったり、腹部のマッサージをしたり薬に頼らないよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務体制で時間の制約はあるが、何も無い日は午前・午後と入浴の時間を持ちひとり一人のタイミングに合わせて支援をしている。拒否された時には無理強いせず後日改めて入浴にお誘いしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状況や本人の様子を伺いながら必要に応じ静養を促したり、ホールの方が安心できる方にはクッション等を使用し気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があった時には、服薬確認表と連絡ノートに記入し周知している。変更後の様子観察を行いながら変わりあれば病院に報告する事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	『お手伝いがしたい、楽しみ』と言われる方には、野菜の皮むきや食器拭き、洗濯物たたみ等をお願いしている。他者にたたみ方を教えながら行われる事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もあり気軽に戸外に出かける事は難しいが、少しでも気分転換が出来るようドライブ行事を行っている。今は難しいが、普段の会話の中で行きたい場所を伺ったりするようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍もありお金を使うような場所へ外出する機会はないが、入居時からお金を持っている方もおり、食事後等に『おいくら』とお金を払おうとされる事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は家族や友人と電話で話したりされている。希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るような支援は行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、混乱されないように席の配置をしている。居心地が良いように音楽をかけたりする事もある。壁には歌の歌詞を書いたポスターを貼り、季節ごとに変えている。飾りつけも季節ごとに換え、室内に居ても季節を感じてもらえるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺や壁際にソファを配置したりする事でいつもと違う場所でも過ごす事が出来るようになってきている。仲の良い方とソファに座り外を見たりされている姿もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を居室に置いたりされる方もいる。本人が安心して居心地よく過ごしやすいような家具の配置になるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に表札を付けたリトイレやお風呂が分かるように表示している。安全に自立した生活が送れるよう、見守りをしながらできることや分かる事を行えるよう対応している。		